

SHIRAKOBATO

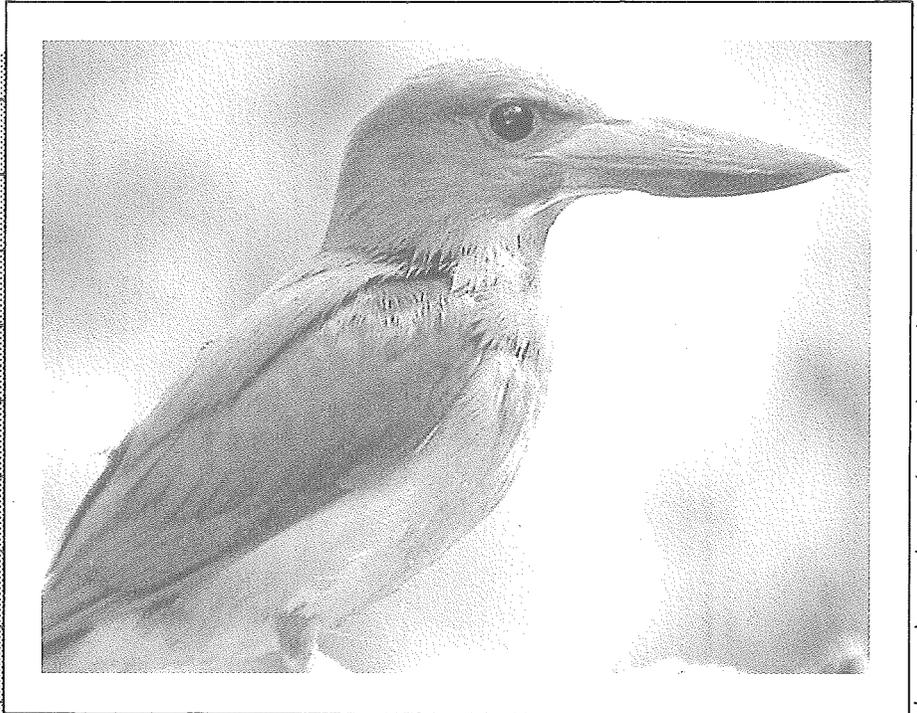
# しらこぼと



2003. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 233

日本野鳥の会 埼玉県支部

## 私のいち押し『SHORE BIRDS』

杉本 秀樹 (習志野市)

本部のバードショップには様々な洋書の図鑑が並んでいる。種類別、地域別とかかなりの数になり、実際に購入したという方もいるだろう。それを埋蔵文化財にしないための方法をご紹介したい。英語が苦手という人のための活用術である。

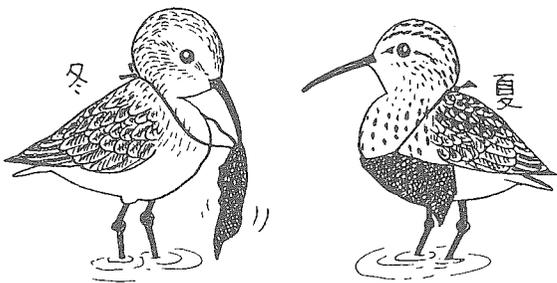
## ◆『ショアバーズ』との出会い

世界中のシギ・チドリ類がすべて網羅された決定版の図鑑が出版されたという案内が野鳥誌に載った。もう10年以上前のことである。それが『ショアバーズ』である。谷津干潟の担当をやっている手前、見栄を張って買ってみた。洋書なので覚悟はしていたが、やはり読めない! 歯が立たない!! なんとかものにできないかと考えた末に、意を決して『世界鳥類和名辞典』を買った。当時で2万数千円もした。

## ◆鳥の和名を調べる

『ショアバーズ』は全部で214種のシギ・チドリ類が掲載されている。最初にその和名を調べて書きこむことから始めた。かなり根気がいる作業である。

学名を確かめながら調べていくと該当する和名の載っていない種類もある。後でわかったことであるが、分類方法の違いから亜種として扱っていることがあり、その場合は和名は空欄のままになる。ほかにも絶滅種として載っている種もあったりして、気が滅入ったりしたがとりあえず和名で埋めるのは終了した。



ハマシギ

## ◆分類を調べる

和名はわかったが、そのままでは全体の並び方がよくわからない。和名辞典は分類順に記載されているが、『ショアバーズ』には分類表がないので科・属・種の順に一覧表を作ってみた。などと偉そうに書いているが、そのような分類があるのも、このときに初めて知ったことである。

地域別の図鑑ではあまり必要ないが、種類別のものではこれを作ると分類方法の違いも含めてわかりやすくなる。

『ショアバーズ』とはチドリ亜目の総称で、ほかにカモメ類、ウミスズメ類を含めてチドリ目を構成していることがわかった。そして、『ショアバーズ』はレンカク科、タマシギ科など12科に分類されている。

## ◆『ショアバーズ』の特色

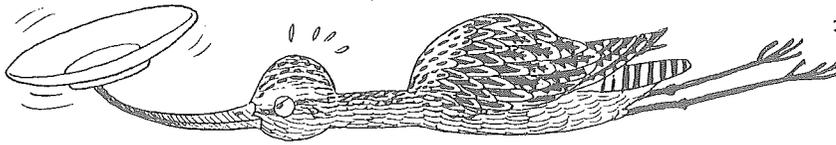
他の種類別の図鑑と比較して『ショアバーズ』の特徴としてあげられるのは、精密な図版である。一つの種類でも♂と♀、幼鳥と成鳥、飛翔図、亜種による違いなどが緻密なイラストで描かれている。これを見ていると図鑑としての完成度の高さに圧倒される。英語の文化圏にはこれほどの研究の蓄積があるのだろうか。少なくとも日本ではこれほどのものは出版されないであろう。

なんだか無力感に襲われるが、他の図鑑がすべてそうなのではない。『ショアバーズ』は出色の出来なのである。

## ◆『フィールドガイド』を超えて

分類の面では、『フィールドガイド 日本の野鳥』は科までで、属についての記述はない。ハマシギがオバシギ属に分類され、さらに6種類の亜種に細分されていることも『ショア

夏羽は全身赤褐色



オオソリハシシギ

パース』で初めて知った。この亜種については鳥類学の上で重要な研究テーマであり、実際に山階鳥類研究所では日本に渡来するハマシギの亜種の割合を調べているそうである。

ほかにも『フィールドガイド』ではオオソリハシシギやオグロシギなどで赤褐色のものを夏羽、淡色のものを冬羽としているが、♂と♀の違いであることが記載されている。実物をよく観察すると、淡色の方が大きく赤褐色のものは小さい。

掲載されている鳥には日本では馴染みのないものもあるが、シギ科には見覚えのあるものが多いのに気がついた。試しに『フィールドガイド』と照らし合わせてみると、記載されている88種のうち55種が日本でも記録があることがわかった。62.5%にあたる。ちなみに日本で記録された割合は鳥類全体では6%にすぎない。これはたいへんな驚きだった。

シギ類の多くが長距離の渡りをするので、そして日本がその渡りのルート上に位置していることがその理由としてあげられよう。

ただし、世界中にはこれほどの種類がいる、というのではなく「これだけしかない」というのはショックだった。不思議に思われるかもしれないが、地平線まで見渡してもこ

れだけ、というのが自分で感じた正直な感慨である。

#### ◆再びフィールドへ

これだけいろいろと調べただけから、シギ・チドリの識別も確かなものになっただろうって！ 全くそんなことはない。鳥を見分けるのはフィールドで教わったり、確かめたりしたことでしか上達しない、いわば職人的な技術のようである。

『ショアパース』から学んだのは、日本の干潟や湿地が世界的見地からも重要な場所だということである。春にはオオソリハシシギの群れが長い嘴をそろえて飛来し、夏羽に変わったハマシギがハヤブサに追われて団子になって逃げ回る光景が、日本の伝統的な風物詩だということである。しかし、現在の日本で千羽以上のハマシギが越冬する場所は数箇所しかない。

鳥類学の世界は奥深く、興味のあるテーマも数多いであろう。しかし、それらの研究が行われているのは、いつも探鳥会が行われているのと同じ環境である。

動物写真家の岩合光昭さんが世界中を回った後に発見したのは、外ならぬ日本の自然の美しさで、その集大成が『スノーモンキー』だというのは有名な話である。

ごく普通の光景がそのまま価値があることを認めるのは困難なことなのかもしれない。

比較にならないが、「ゴールデンウィークはどちらへ?」「夏休みはどこへ行った?」答えはいつも谷津干潟と三番瀬。

ふつーの光景の価値を堪能していると負け惜しみを言って終わりにしよう。

尚、『ショアパース』の和名対照表は支部事務局にも送ってあるので、必要な方は参照していただきたい。

(カットは全て『なすびの野鳥図鑑』より)

追伸：1991年版で6,000円弱でした。編集部



オグロシギ

# 野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

## ●レンカクを追加

分類 チドリ目レンカク科レンカク属

英名 Pheasant-tailed Jacana

学名 *Hydrophasianus chirurgus*

報告者 小峯 昇(岩槻市)

観察場所 さいたま市見沼区

報告内容 2003年7月20日(日)

購入したばかりのデジカメを使うために出かけ、アマサギなどを撮りながら一回りして、クワイ畑に行ったところ、この個体が1羽いた。特徴的な色形で、

直ちに本種と同定できた。しばらく待って撮影。農家の方が作業に来て飛び立ち、降りた南側のクワイ畑に近づいて観察。クワイの茎についている虫や水面に浮かんでいるものをついばんでいるように見えた。

翌21日(月・休)午後4時過ぎ。近くの丈の低い(田植えの遅かった)水田にいて、夕陽が当たると、首の後ろの黄色が黄金色に輝いた。

24日(木)やはり水田にいた。26日(土)



と27日(日)には見当たらず。クワイ畑はカルガモよけ?のテグスやネットが張られていた。

以上の報告を受けて委員会としては、本種を県内初の例として記録することにしました。

近年日本での観察例は増える傾向にありますが、インド・東南アジア・中国南部・台湾などに分布し、日本ではまれな迷鳥です。

県内野鳥目録314番目の追加になります。

## あっ!

島村 照代(熊谷市)

今朝の5時30分ごろ、吹上町を流れる元荒川で「カワセミ」を見ることができました。榎戸堰から下って数分のところでした。

目の前に、あの綺麗なコバルトブルーのカワセミが……。もう、感激!!!

一緒にウォーキングしていた夫と思わず「あっ!」と声を出してしまったほどです。

散歩をしている人から「以前、この川でカワセミを見た」と聞いていたのですが、まさか本当に見られるなんて～。うれしかったので報告します。支部会員ホヤホヤです。

## お宅はいかがですか?

小林みどり(大和市)

シジュウカラの巣箱を観察していたら、青虫をくわえた雄雌が同時に、巣箱の屋根にとまった。どうするのかな?と見ていたら、雌が虫をくわえたまま、いきなり羽をふるわせる“おねだりポーズ”を始める。巣箱には雄が先に入り、結局、雌は雄が給餌を終えて出てくるまで“おねだりポーズ”で待っていた。シジュウカラって亭主閑白なんだ! でも、「オレが先!」とばかりに、子供の世話をするなんて、何かほほえましかった。

マレーシア探鳥ドタバタ

蟹瀬武男 (さいたま市)

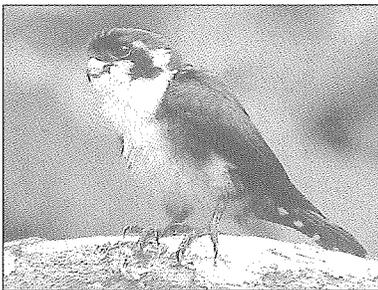
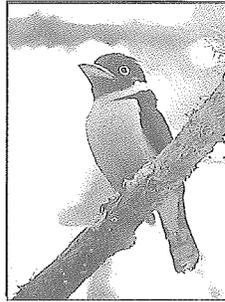
7月末、1週間ほどマレーシアへ。ほとんどタマン・ネガラ国立公園だけのショートバージョンの旅。



なぜか今回は最初から気合が抜けていた。忘れ物が多い。予備のビデオカメラを忘れた。手指の爪を切って

いくのも忘れた。イスラム圏に行くのに、寝酒用のウイスキーを確保しておくのも忘れた。

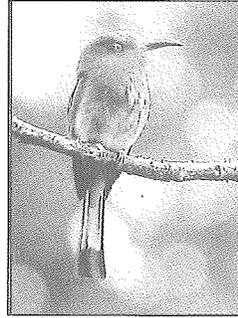
空港から走り出して間もなく、現地の鳥ガイドが高速道路の路側帯に車を止めてカワリクマタカを見つけた。これは幸先良いと思ったが、翌朝、なんとビデオカメラを落としてしまった。しかもコンクリート舗装の上に。ウワツと言ってもう遅い。跳ねてはらずで横たわるカメラ……。いつもは落下を防ぐために二重三重の防止策を講じているのに、それを全部すり抜けて、魔がさすとはこういうことか。



おそろおそろスイッチを入れればなんとか起動する。ほっ、

大丈夫かと思ったが、世間はそんなに甘くない。フォーカスが動かない。手動でも自動でも、1m少し先の位置にしかピントが合わない。

スコープに付ければ、そちらでフォーカス調整はできるので、望遠撮影はできる。風景



写真は、女房のコンパクトカメラで間に合わせるか。

常に用意していた予備カメラを、今回に限って忘れていたのは何とも言いようのない偶然だが、だからと言って簡単にめげないのは、おじ

さんの強いところ。

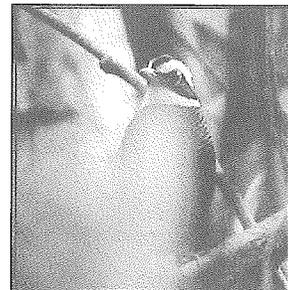
すばらしく美味で果物の王様だが、たまらなく臭いドリアンという果物、ご存じですよ。あれは切ったばかりの時は全然臭くない。ちょうど良い季節であちこちに山盛りで売られている。たらふく食べて、さっさと落下事故のことは忘れた。

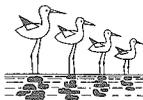
タマン・ネガラ国立公園内の鳥見は、朝の内に近くの密林などで鳥を見て歩いて朝食にもどり、また出かけては昼食に戻るというパターン。かなり楽。だから昼からビールを飲んで汗で流れた分を補給する。夜は、忘れた寝酒の分として、ビールを少しプラスする。

おかげでビール代がかさんで、お土産を買う分が少なくなったと女房はほやくが、気にしない、気にしない。

鳥のガイドと通訳相手に馬鹿ばかり言って遊んでいたけれど、鳥のガイドはかなり優秀、空港に戻る直前までよくがんばって、結構楽しい旅になりました。

ええと、鳥は……ミドリヒロハシ(左上)とかクビワヒロハシ(左中)のヒロハシの仲間、スズメくらい大きさしかないモモグロヒメハヤブサ(左下)、漫画みたいな顔つきのムネアカハチクイ(右上)などが印象に残りましたね。お目当てのヤイロチョウ類はやはり難しく、キマユシマヤイロチョウ(右下)が、木の葉越しに写せただけでした。





# 野鳥情報

**岩槻市加倉 5丁目** ◇4月27日、自宅でセンダイムシクイの鳴き声を聞く(藤原真理)。

**岩槻市長宮** ◇5月17日、2ヶ所でそれぞれ約20羽のムナグロの群れ。5月20日、ムナグロ約10羽(鈴木紀雄)。

**岩槻市上野** ◇7月8日、元荒川沿いの道路上の電線でシラコバト6羽が散在。2羽程はよく見かけるが、6羽は珍しい(鈴木紀雄)。

**岩槻市大口** ◇7月14日、幼鳥1羽を連れたコチドリ成鳥1羽。幼鳥は、白っぽい毛玉に長い足が生えている印象(鈴木紀雄)。

**伊奈町大針** ◇5月16日、新幹線高架下のイワツバメのコロニーの様子を見に行く。イワツバメ4羽が飛んではいるが、ずいぶん寂しい。なんと、多くの巣がスズメに乗っ取られている様子。5月23日、イワツバメ5羽程度。6月26日、同所のイワツバメのコロニーはスズメに乗っ取られてダメの模様。南側を飛ぶイワツバメは3羽程。用水にかかった農道の橋の下に巣をかけたようだが、こりゃ、今年は厳しそう。7月8日、同所付近を探したがイワツバメの姿なし。コロニー消滅の状況(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜** ◇5月23日、上沼でコアジサシ5羽、杭にとまったり、ダイビングで餌を捕ったり。今年はどこで繁殖するのか。葦原に飛び込むヨシゴイ1羽。6月19日、上沼近くの水田で稲の間に見え隠れするパンの親子を観察。ヒナはかなり大きく、幼鳥



サンカノゴイ(編集部)

の手前位の大きさで2羽。6月28日、上沼でコアジサシ3羽、繁殖できているのだろうか。パン幼鳥1羽。7月8日、上沼南側の水田でヒナ連れのカルガモ(鈴木紀雄)。  
**越谷市東町** ◇5月29日、レークタウンの造成地で盛土の上にコアジサシ10数羽が降りていた。繁殖するかもしれない(鈴木紀雄)。  
**越谷市大間野町 4丁目** ◇自動車板金修理工場の屋根裏でハクセキレイが繁殖中。7月15日午前9時現在、4羽のヒナが餌を運んでくる親を待っている。よく観察すると、親は2羽で交互に餌を運んでくるが、すぐ巣に入る親と、警戒して、なかなか巣に入らない親がいた。1週間後位には、巣立ちそう(小菅靖)。

**さいたま市北区日進町 1丁目** ◇5月7日朝、サンコウチョウ1羽、「ホイホイホイ」という声が聞こえたので、もしやと思って立ち止まった。次に月日星も聞こえてきた。間違いない。声のする木の方に行くと、飛んで行く細長い黒っぽい姿が枝の間に見えた。ここでは、2度目の記録だ。5月13日朝、エゾムシクイ2羽、センダイムシクイ1羽、ツミ1羽。今年はエゾムシクイが多いように感じる(森本國夫)。

**さいたま市北区本郷町** ◇5月27日午前10時30分頃、カッコウの声を聞く(藤原寛治)。

**さいたま市北区宮原町 4丁目** ◇5月28日午前7時30分頃、出勤途中の車の中から上空を飛んで行くカッコウ1羽(藤原寛治)。

**さいたま市北区宮原町 1丁目** ◇6月16日午後2時頃、北区役所北側の工事現場上空でコアジサシ2羽(藤原寛治)。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇5月10日、ピクニックの森でキビタキ(陶山和良)。

**さいたま市桜区新開** ◇5月10日、田植え前の田んぼでムナグロ22羽、内3羽は幼鳥(陶山和良)。

**さいたま市桜区道場** ◇5月10日、土手でチョウゲンボウ(陶山和良)。

**さいたま市桜区在家** ◇5月17日午前6時30分、今年初めてカッコウの声が聞こえました。まだ、「カッコッコ」と下手な鳴き方でした。若いのかな?(山本進)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇5月28日、B区でヒクイナの声。じーっとしていたら葦原の縁に来たので、久しぶりに姿を拝むことができた。6月9日、B区でヒクイナの気配なし。オオタカ成鳥が何かをつかんで飛んで行く。カッコウがのどかに歌っていた(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬取水堰北側 ◇7月13日、田んぼの畦道にササゴイ1羽が降りるのを目撃。田んぼの中をじっと覗いていたが、やがて中へ入って行った。うまく餌を捕れたかな(志賀敢)。

さいたま市見沼区膝子 ◇6月2日、カッコウの声。樹冠にいた(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇6月6日、水田脇を車で通りかかったら、水面にいる鳥影。車を止めて観察したら、オグロシギ1羽。一心に羽づくろいしていて、尾羽もよく見えた。その他にコチドリ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区大和田町 ◇7月14日、勤務先の駐車場で電線上のカワラヒワを見上げたら、「ギウー」と鳴く別の鳥。カワラヒワ幼鳥が甘えているのかと思ったら、ヒマラヤスギの枝にマヒワ1羽。こんな季節にいるなんてビックリ(鈴木紀雄)。

さいたま市浦和区常盤8丁目 ◇6月15日午後3時30分、所用の帰途、仲町小学校横の静かな通りを自転車で走行中、カッコウの声を耳にし、思わず立ち止まり、この時間に市内の真ん中でと耳を疑った。間違いなく校庭の端の緑の大木の中から聞こえてきた。驚きとうれしさが交叉した(陶山和良)。

さいたま市南区別所沼公園 ◇6月21日午前7時30分、ハシブトガラス2羽(つがいとと思われる)。双眼鏡でのぞいていると、激しく鳴き、1羽は小枝をくちばしでとって



アオバズク(菱沼一充)

落とす。もう一羽は、枯れ枝を足で折って落した。近くに巣があったのかもしれない。近くにコゲラ、シジュウカラ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバト、カルガモ(野口春彦)。

さいたま市南区堤外 ◇7月2日、彩湖北縁で浮きにとまっているカワウ10羽、コアジサシ10羽、ササゴイ1羽。近くの水面上でカイツブリ(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区下山口新田 ◇6月26日、モズ♂♀若鳥各1羽。芝川調整池でコアジサシ3羽、ヨシゴイ4羽、カッコウ1羽(鈴木紀雄)。

川口市行衛 ◇6月3日、芝川第一調整池でカッコウの声。姿見えず(鈴木紀雄)。

川本町上原白髭神社周辺 ◇5月16日、近所の養鯉池でオオヨシキリがよく鳴いていた。この付近での初認。5月31日、近所の田植え前の田んぼでアマサギ。この付近での初認(大澤あつし)。

寄居町赤浜 ◇5月22日、うちの近所に山イポーが来ています。夕方、「ポーポー」と繰り返して鳴いています。まだ、姿は確認していませんが、間違いなくミゾゴイだと思います(道正幸信)。

表紙の写真

亜種リュウキュウアカショウビン(ブッポウソウ目カワセミ科アカショウビン属)

7月半ば。支部の鳥友たちと合計8名で沖縄県宮古島に。うわさ以上に鳥の多いところだった。森の中の水場に座っていると、次から次へとサンコウチョウ、アカショウビン、オオクイナ。アカショウビンは亜種リュウキュウアカショウビン。亜種アカショウビンより背中紫色が濃い。森の中を歩けばキンバト。海にはエリグロアジサシ、ベニアジサシ。湿原にはムラサキサギ。泡盛古酒もうまい。いい所だ。(文と写真・海老原美夫)

# 行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

## リーダー研修会

期日：9月7日（日）

会場：北本市中央公民館

詳しくは 8 月号をご覧ください。

本番間近です。

## 『しらこぼと』袋づめの会

期日：9月20日（土）午後 1 時～2 時ころ

会場：支部事務局108号室

## シギ・チドリ類県内調査

期日：9月13日（土）

埼玉県支部では、春と秋の 2 回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。

下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願い致します。

### ◆秋ヶ瀬（さいたま市）

集合：午前 9 時 30 分 大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

## タカの渡り調査

期日：9月20日（土）、9月21日（日）

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで、貴重なデータが得られるし、タカ類の識別も勉強できます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。調査のため、参加費は不要です。

### ◆天覧山（飯能市）9月21日（日）

集合：午前 9 時から正午まで、ご都合の良い時間に山頂展望台へお越し下さい。近くに水洗トイレあり。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約 30 分

担当：佐久間

なお、この日には、次の 2 地点でも調査を行います。

### ◆物見山駐車場（東松山市・鳩山町）20日（土）

### ◆小川げんきプラザ本館屋上（小川町）21日（日）

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方はご都合のよい時間にお越し下さい。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月14日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9：11 発、または寄居 8：49 発に乗車。

担当：島田、和田、森本、中里、石井（博）、倉崎、高橋（ふ）、後藤、藤田、栗原、大澤、飛田

見どころ：梅雨の明けるのが遅かった分だけ秋も遅いのだろうか、でも風にも、戻ってきた渡りの鳥にも秋を感じさせるものがある。夏の間、少なかった鳥たちが仲間を増やしていく。鳥の季節の

## さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月21日（日）

集合：午前 8 時 15 分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前 9 時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、  
若林、兼元、森（力）、清水、小菅、  
新部

見どころ：見沼田んぼに秋がやってきた。今年  
は鳥たちだけでなく、見沼田んぼに  
咲く花々や斜面林の木々にも秋を感じ  
てみよう。そしてそれが鳥たちを感じ  
ることにつながっていくだろう。芝川  
の灌木にツツドリ、斜面林の大木にエ  
ゾビタキを見たいものですね。

### 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月21日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8：24→坂戸にて越生  
線乗り換え8：42発。または寄居7：26  
→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗  
り換え。JR川越線大宮7：55→川越  
にて東武東上線乗り換え。

解散：12時30分頃

担当：藤掛、高草木、青山、池内、池永、久保田、  
佐藤（壮）、志村、杉原、原、藤澤、  
増尾、山田

見どころ：清流の青い鳥・カワセミ、渡りの  
鳥・サシバ等を探しに、そして赤い花  
・彼岸花を楽しみに、高麗川の探鳥会  
にご参加ください。

### 松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月28日（日）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線北越谷駅  
東口、集合後午前8時50分発エローラ  
行きバスにて「松伏高校前」下車。ま  
たは午前9時30分、松伏記念公園北駐  
車場。

解散：12時頃、集合地の駐車場。

担当：田邊、橋口、神場、吉岡（明）、大塚、  
小菅、土澤、榎本（建）、野村、本田

見どころ：シラコバトを中心に農耕地や都市  
型公園など比較的身近かな鳥をじっ  
くり観察しましょう。目にはさやかに  
見えねども・・・夏鳥と冬鳥の主役交  
替が始まっています。地元の皆さんか

ら鳥情報や昔話など思わぬ知識が得ら  
れるかも知れませんよ。

その他：松伏中央公民館と合同開催

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月28日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、または所  
沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、  
山本（真）、久保田、山本（義）、石光、  
山田（義）

見どころ：暑い夏も過ぎ去って、キンモクセ  
イの香りが漂う季節となりました。モ  
ズが高鳴きがひびく入間の河原は、小  
さな喜びがあちこちにあります。

### 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月25日（土）～10月26日（日）

集合：25日午前9時、長野駅コンコース、新  
幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま551号」（東京6：52  
→大宮7：18→熊谷7：32→高崎7：49  
→長野8：50着）、または「あさま1号」  
（東京7：26→大宮7：52→長野8：53  
着）。

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス  
代、保険料など）。万一過不足の場合  
は当日精算。集合地までの往復交通費  
は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

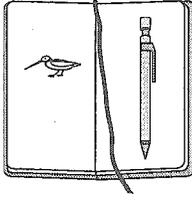
申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性  
別、電話番号を明記して、菱沼一充

まで。

担当：菱沼、藤掛、中里

見どころ：マミチャジナイ、シロハラ、アカ  
ハラなどのツグミの仲間、マヒワ、ア  
トリなどの冬鳥。運がよければムギマ  
キに会えるかも。紅葉と秋の味覚が楽  
しめます。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用  
意はできません。



# 行 事 報 告

3月30日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 52人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ キジ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 桜の季節。つぼみもちょっぴりほころび始める。おだやか陽気の朝、スタートと同時にアトリ、ビンズイが出てくれ、全員で観察というラッキー。今年はアトリの当たり年とか。各処で見られるとのこと。暖かさにつられてカツバメも舞い、ヒバリも見られた。シメは採食に懸命で、来る鳥、去る鳥の季節を実感。久しぶりのアトリであったが、いつものカラ類の混群には出会わずじまいには一寸さびしい。(内藤義雄)

4月6日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 19人 天気: 晴

カワウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ トビ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ キジ オオバン セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 「干潟を守る日2003」の行事の一環としての探鳥会だったが、大変風が強く、参加者も少なめだった。そこで、コースを短縮して、主に野焼きの跡の黒と緑のコントラスト模様の葦原の中を歩き、鳥を探した。湖岸では、三角波に抗って一生懸命に餌を採っている「残りガモ」などの水鳥たちや、渡って来たばかりのツバメを観察できた。ホオジロ、ウグイス、ヒバリは風の中でも精一杯囀ってくれたし、三脚が倒れるほどの強風

も、チュウヒやノスリをじっくりスコープで見られるという余禄をもたらしてくれた。

(田邊八州雄)

4月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 45人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コガモ オオタカ バン キジバト コゲラ ツバメ ジョウビタキ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 前日の雨で散り残ったエドヒガンザクラ、満開のソメイヨシノ、咲き始めたカバザクラを同時に観賞できた。林床にカタクリが咲き、アカシデの芽生えが美しい。シジュウカラだけが元気にさえずっていた。学習センター近辺でオオタカが出現したが、見ることができたのは数人のみだった。(岡安征也)

4月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ キジ コチドリ イソシギ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 前日の強い雨が一転、いい天気になったが、風がとても強かった。桜をはじめとする花々はまざまざ咲いていたが、鳥たちとの出会いは多くなかった。ちょっと残念。コースも長かったので参加者の皆さんお疲れ様。(伊藤芳晴)

4月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 67人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ トビ オオ

タカ ハヤブサ キジ イカルチドリ キジバト  
アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ  
ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ  
ドリ モズ ヒレンジャク ツグミ ウグイス  
シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ  
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス  
ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 大麻生  
200回記念探鳥会と銘打って実施。晴天の下、桜が  
少し散り始め、土手の両側には菜の花等が満開と  
いう情景の中、上空にはカケスの群れが数度出現。  
ゴルフ場を横切り、河原へと歩を進めると、ハヤ  
ブサ、オオタカ、アオゲラ等が姿を見せてくれた。  
さらに最近できた河原の草地を縦断する遊歩道で  
は、記念の探鳥会を祝うがごとくヒレンジャクま  
で出現。参加者全員、大満足の日だったのでは  
ないだろうか。(後藤康夫)

4月19日(土) 『しらこぼと』袋つめの会

ボランティア: 10人

新井浩、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂  
幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、藤野富代、増尾  
隆、松村禎夫

4月20日(日) 東松山市 物見山

参加: 19人 天気: 小雨

カルガモ キジバト アカゲラ コゲラ ツバメ  
ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ  
ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ ア  
オジ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (20種) コース変更と時間短縮で  
スタート。芽吹き的美しさ、チゴユリの群生、八  
重桜、山桜、山つつじ等々の花。鳥数は少なかった  
が、市民の森折り返し、新しい「平和資料館」  
1周コースでは、池にカルガモの番、野生のジュ  
ウニヒトエも咲いていて、コース変更も正解だっ  
た。(藤掛保司)

4月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 40人 天気: 曇一時小雨

カワウ カルガモ コガモ コジュケイ キジ  
バン コチドリ イソシギ キジバト カワセミ  
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ  
ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワ  
ラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシ  
ブトガラス ハシボソガラス (26種) “春雨じゃ

濡れて行こう”ではないが少しの雨は楽しいもの  
だ。春を告げるキジの声と綺麗な姿に見とれてい  
ると、雨は探鳥会が終わるまで降らなかった。今  
回は参加者に新しい人が多く、やはり4月である。  
後援いただいている博物館の館長さんも交替して、  
ご挨拶をいただいた。(楠見邦博)

4月27日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 73人 天気: 曇後晴

カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ  
コガモ キジ イソシギ タシギ キジバト コ  
ゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセ  
キレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス オオヨシ  
キリ センダイムシクイ セッカ キビタキ オ  
オルリ シジュウカラ メジロ アオジ カワラ  
ヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ  
ソガラス ハシブトガラス (33種) 前日の下見で  
は目玉になる鳥はいなかった。心配の中で出発。  
鴨川機場付近を見て公園に入る。案ずるより何と  
やら。オオルリがまず出て、続いてキビタキ、左  
方と後方でセンダイムシクイの声。みんな他の鳥  
はもう頭がないようだった。(倉林宗太郎)

4月29日(火、休) 春日部市 内牧公園

参加: 61人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケ  
イ キジ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ  
ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ アカ  
ハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ  
カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (23種) スタート直後の林で、ア  
カハラのさえぎりを聞く。お花見広場では、カワ  
ラヒワのほほえましい求愛給餌を見る。新緑の美  
しい林間アスレチックの雑木林で、シジュウカラ  
が盛んにさえぎっていた。暑いせいか鳥がやや少  
ない。春日部市報に開催案内を載せ11名の参加者  
(初心者)があった。(吉安一彦)

4月29日(火、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 22人

赤堀尚義、石井智、海老原教子、海老原美夫、大  
坂幸男、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、志  
村佐治、高草木泰行、高橋優、時吉由子、成田武  
敏、新部泰治、野口幸広、馬場友里恵、福井恒人、  
藤澤洋子、藤掛保司、室和子、百瀬修、米岡茂代

## 連絡帳

### ●次期評議員についての話し合い

来年 2 月 1 日からの評議員に関して、関東ブロックの推薦する候補者を本年 9 月中旬に決定する必要があります。

現在東京支部を除く関東ブロック推薦の評議員は 7 名。東京支部を除く支部の数は 8 でしたので、うち 1 支部から理事を、残りの 7 支部からそれぞれ 1 名の評議員を推薦することができました。今期埼玉県支部推薦の評議員は、橋口長和幹事がつとめていることは、ご存知の通りです。

ところが、寄附行為（会社の定款に当たる財団法人の基本的な決まり）が改正され、認証のための手続きが現在環境省との間で続けられています。それによると、今後は東京支部を除く関東ブロックから 2 名推薦ということになっています。事務手続きの簡素化、組織のスリム化をはかるための改正です。

8 支部から 1 名の理事と 2 名の評議員を推薦するにはどうしたらよいか。9 月 20 日（土）に茨城支部担当で開催される関東ブロック協議会で話し合われます

### ●NPO 法人に関するアンケート

本部の本部・支部検討審議会から、支部の NPO 法人化に関するアンケートが届きました。埼玉県支部としては、

- 1、今までに支部として法人格がないために特に困ったことはない。
  - 2、特に必要性を感じていないので、NPO 法人格の取得は考えていない。
- と回答しました。

### ●坂戸市浅羽ビオトープを見学

7 月 6 日（日）坂戸市ふるさとの川高麗川を考える会主催第 18 回野鳥観察会が同市鶴

舞・浅羽地区で開催され、増尾隆、坂口稔、増尾節子が指導に当たりました。

高麗川河川敷内のビオトープが一応完成したことを記念して、海老原美夫副支部長と福井恒人県鳥獣保護員が呼ばれて観察会に参加、ビオトープなどを見学しました。地域の市会議員 3 名を含めて参加者 31 名、魚を飲み込むササゴイなど観察種 31 種でした。

### ●9 月の事務局 土曜と日曜の予定

- 6 日（土）10 月号編集作業。研究部会議。
- 13 日（土）10 月号校正。
- 20 日（土）袋づめの会。
- 21 日（日）役員会。

### ●会員数は

8 月 1 日現在 2,520 人です。

## 活動報告

7 月 12 日（土）8 月号校正（喜多峻次、大坂幸男、山田義郎）。11 日（金）にも（海老原美夫）。

7 月 20 日（日）支部役員会（司会：玉井正晴、各部の報告・次期役員評議員選出への対応・年末講演会講師・その他）。

## 編集後記

山形県新庄市で酒屋をやっている学友の T 君が本を出した。昭和 63 年から毎月酒に関する話題を書いたミニコミ紙『富田通信』を出しているのだが、その内の 1 号から 100 号までをまとめて、北海道紋別市で印刷会社に勤める同じく学友の Y 君が本にした。「第 1 巻」と書かれた本の重さに、乾杯！（藤原）

6 月半ばに転勤して、単身赴任。ウシガエルの声の子守唄に眠り、朝はツミ、ホトトギス、カッコウなどの声。前よりもさらに鳥の多い環境で、単身赴任の殺風景な部屋に、せめてもの彩り。（森本）

しらこぼと 2003 年 9 月号（第 233 号） 定価 100 円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>  
編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階  
（財）日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608  
本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社